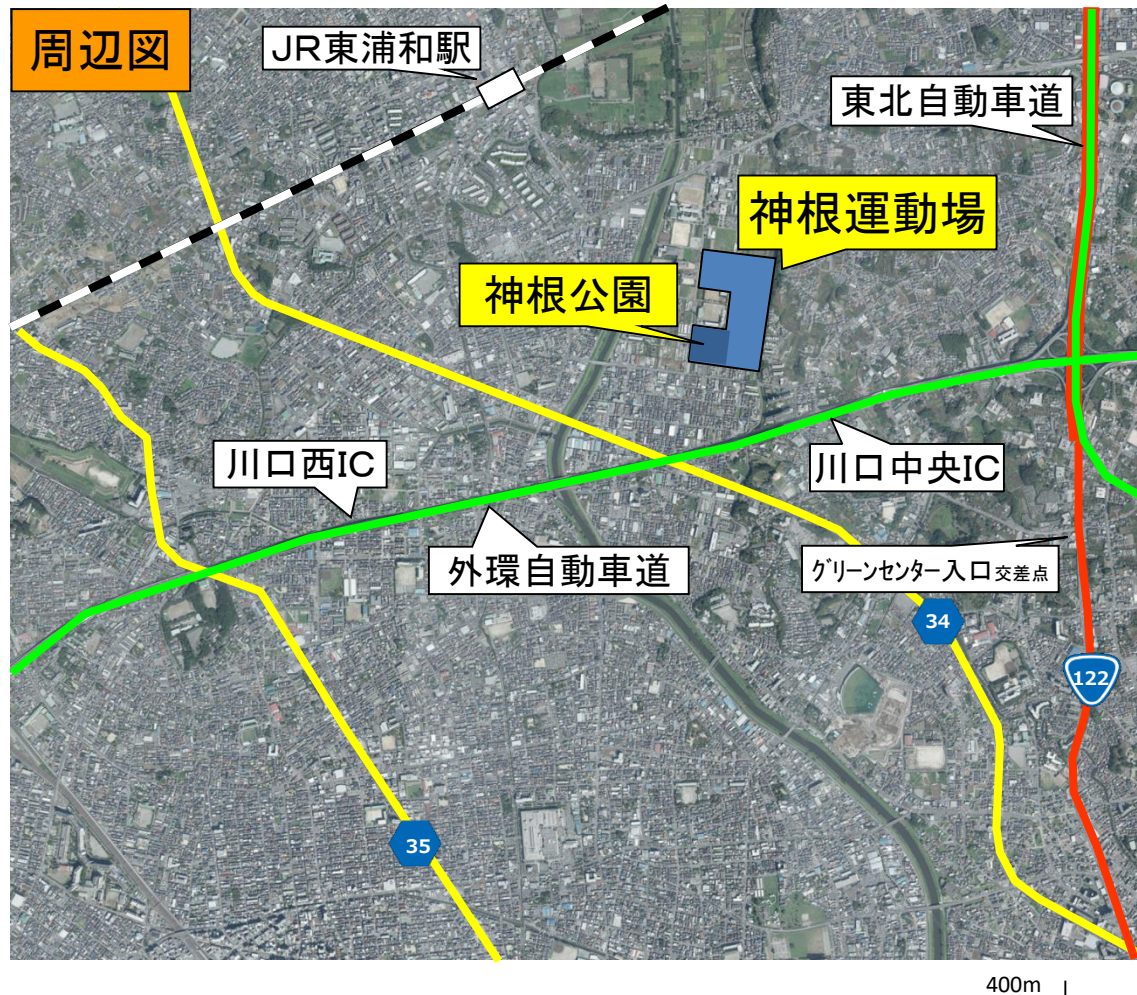


候補地の現況 —川口市神根運動場—



神根運動場(川口市営)

所在地	川口市神戸767-1 他
敷地面積	12.9ha
交通 アクセス	JR武蔵野線 東浦和駅から徒歩25分

神根運動場（川口）の状況 ①スポーツ・健康を核とした街づくり、賑わいづくり

評価項目	現状	市の提案（R3.2.10現在）
①－1 スポーツを核とした街づくり、賑わいづくり	<位置> 川口市の北部、神根公園に隣接 <主な沿革> ・昭和46年 北スポーツセンター及び神根西公民館開設 ・平成 6年 野球場（4面）が整備 ・平成11年 サッカー場兼ラグビー場及び少年サッカー場が整備 ・平成13年 ターゲットバードゴルフ場整備 <利用状況等> ・平成17年から川口リトルシニア野球協会及び川口市ソフトボール協会の要望を受け利用許可を行っている。 ・各グラウンドは主に近隣のサッカーチームや野球チームの練習・試合会場として利用されている。	<水泳に熱意あふれるまち川口> ・青木町公園で過去2度の国体水泳競技を開催 ・県内有数のプール設置数、利用者数 ・水泳に生涯スポーツとして携わるシニアアスリート <水泳を核とした県南の新たなスポーツ拠点> ・「水泳のまち川口」の定着 ・周辺の運動場をスポーツ拠点として整備 ・地域クラブとの連携による水泳の普及 ・マスターズ大会などのシニアアスリート支援 <川口市立高校を中心とした連携> ・川口市立高校にスポーツ科学コース設置 ・スポーツ科学施設を利用した大学との連携 ・市内医療機関と連携した障害予防や競技力向上 <医療機関や民間事業者との連携> ・見沼の自然を生かしたウォーキング教室 ・プールを活用した生きがいづくりの促進 ・スポーツ科学施設を活用したデータ収集 ・民間事業者によるデータ管理や医療機関による医学的指導 <近隣施設との連携> ・グリーンセンター、イイナパークでの子ども向け体力測定 ・SKIPシティでの子ども映像制作 ・川口総合文化センターリリアでのアスリート講演 <屋内50m水泳場及び スポーツ科学拠点施設との連携> ・中学校、高校の大会や練習での施設利用による競技力向上 ・動作分析などの見える化による競技意欲の向上 ・障害予防による競技寿命の延伸による生涯スポーツの発展 ・スポーツ教室の開催による健康増進
①－2 健康を核とした街づくり、賑わいづくり	<利用状況等> ・周辺のグラウンドは市民スポーツの場として活用されており、野球やサッカーの練習の他、市民大会の会場としても利用されている。 ・周辺道路などは川口ツーデーマーチ（ウォーキング大会）や川口マラソンなど市民の参加するスポーツイベントのコースになっており市民の運動の場として利用されている。 ・隣接する北スポーツセンターの体育館及び室内温水プールと共に市民の健康増進に寄与している。 <周辺の状況> ・周辺には川口市立グリーンセンターやイイナパーク川口などの多世代が集まる公園施設がある。	

神根運動場（川口）の状況

②多様なスポーツ・健康増進に寄与するための各種運動施設との連携

評価項目	現状		市の提案（R3.2.10現在）
②－1 競技力向上に寄与するための連携	周辺スポーツ施設の状況 （規格、収容人数等）	屋内25mプール（25m×6レーン） 飛込プール（水深3.5m） 体育館（バスケットボール2面） 野球場（5面うち1面夜間照明あり） サッカー場兼ラグビー場 少年サッカー場 ターゲットバードゴルフ場	<一体活用が必要な施設> ・神根運動場を総合運動場として一体整備 ・市内の青木町公園総合運動場や、スポーツセンターとの連携 ・市の保健センターやスポーツセンター等で開催される健康教室にスポーツ科学の知見を活用 ・子どもたちによる施設見学 ・大学等との連携による、スポーツ科学の視点を踏まえた指導者の育成 <相互連携が望ましい施設> ・今回整備する神根運動場をはじめ市内のスポーツ施設と連携 <防災機能の確保> ・防災拠点としても活用できるよう整備する ・近隣に流れる芝川の浸水対策として開発基準を超える雨水流出抑制を行う ・貯留した雨水は、植物の散水や非常時の雑用水として活用する
	周辺の日本水泳連盟加盟団体登録クラブ	11団体	
	周辺の埼玉県水泳連盟年間優秀選手の所属クラブ	2団体（3名）	
②－2 健康増進に寄与するための連携	周辺スポーツ施設の利用状況 （平成29年度利用者数）	屋内25mプール（53,605人） 体育館（40,891人） 野球場（36,008人） サッカー場兼ラグビー場（10,824人） 少年サッカー場（13,205人） ターゲットバードゴルフ場（27,669人）	
	公営屋内25mプールの分布	市内6ヶ所	

神根運動場（川口）の状況 ③県民の利便性の向上

評価項目	現状			市の提案（R3.2.10現在）
③ー1 車のアクセス、 駐車場の確保	主要道路までの所要時間 （距離）		・国道122号線グリーンセンター入口 交差点まで7. 5分（2. 5km） ・東京外環自動車道「川口 中央IC」まで6. 5分（2. 1km）	<周辺道路の整備> ・安全性の高い利用者動線の確保 近隣鉄道駅からの自転車通行空間整備お よび、幹線第44号線東側の歩道整備と電 線類地中化 ・施設利用車両への車両通行環境整備 広域幹線からの大型車両(バス等)が走行 可能な走行空間の確保と施設入口部の右 折レーンを整備及び案内標識等の整備。 ・憩いの場としての整備 自然豊かな公園としての一体整備 <交通網の整備> ・JR京浜東北線蕨駅～埼玉高速鉄道線新井宿 駅間の路線バスの発着本数増加を検討 ・JR武蔵野線東浦和駅からの市が運営するコ ミュニティバスの発着本数等の増加の検討 ・アスリートバスとしての活用検討 ・シェアサイクルの実証実験を実施予定 <水難救助訓練への活用> ・閑散期を利用し、消防機関や警察機関等と連 携して訓練を実施
	1時間以内に アクセス可能 な市町村数	高速なし	17市町村（27％）	
		高速あり	32市町村（51％）	
	周辺施設の駐車場		神根運動公園内約300台	
③ー2 公共交通機関 のアクセス	最寄駅		・JR武蔵野線「東浦和 駅」から徒歩25分	
	最寄駅からのバス		JR蕨駅から北スポーツセンター下車、2本 /時間	
	1時間以内にアクセス可能 な市町村数		23市町村（37％）	
	2時間以内にアクセス可能 な市町村数		56市町村（89％）	
	主要ターミナル 駅から最寄り駅 までの所要時間		東京駅 ：約44分 大宮駅 ：約20分 川越駅 ：約34分 春日部駅：約37分 熊谷駅 ：約61分	

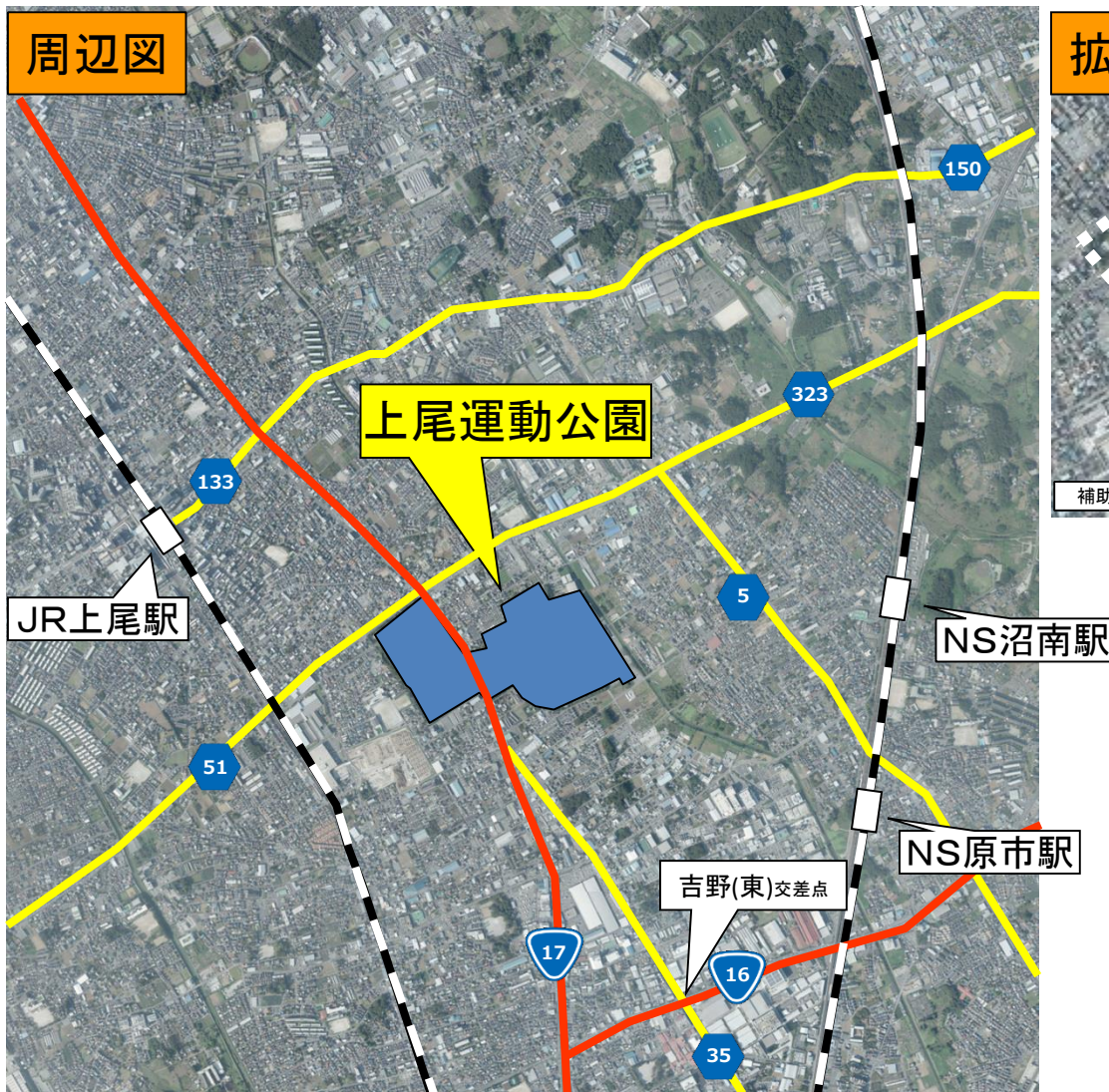
神根運動場（川口）の状況 ④県民負担の抑制

評価項目	現状		市の提案（R3.2.10現在）
④－1 整備費	建設費	既存施設（北スポーツセンター・神根西公民館）の撤去費用について川口市と要調整 神根公園と野球場（4面）の段差があり造成工事を要する可能性がある	<収益性確保> ・水泳部や水泳愛好者、水泳クラブの利用による稼働率向上 ・県南4市107万人を超える人口からの平日閑散期の利用見込み <エコプール熱源> ・太陽熱と太陽光のベストミックスによる自給自足 その際の市スポーツセンターとの共同利用 <土地について> ・市有地の使用貸借により、無償貸与 <市の事業費負担> ・市スポーツ施設との合築により、大会等における駐車場の共同利用やその受益に応じ、市の事業費負担を検討 <収益事業の展開> ・アスリートによるスポーツ教室、イベントなど ・「食と健康」をテーマとしたマルシェの開催やスポーツ用品店と連携した販売会 <川口オートレースとの連携> 協賛レースの開催やスター選手によるイベント
	土地取得費用	市有地 土地取得費用は川口市と要調整	
	周辺地盤	深度20m程度まで軟弱	
④－2 運営費	周辺施設の利用者数	約18.5万人／年	
	収益性	周辺整備計画により変動	

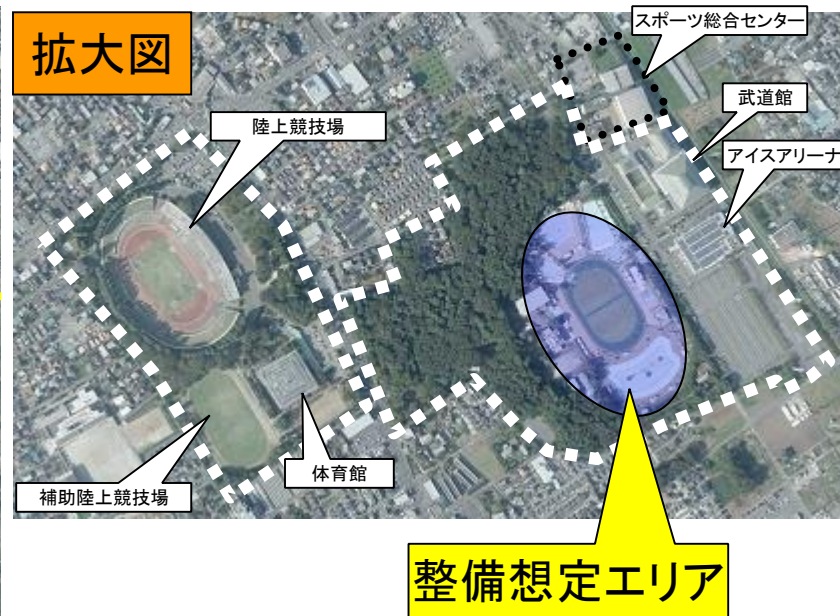
神根運動場（川口）の状況 ⑤その他個別の課題

評価項目	現状		市の提案（R3.2.10現在）
⑤－1 法令・行政手続き	建築基準法	埼玉県建築基準法施行条例の規定による接道道路の幅員に課題あり	必要に応じ条例改正や道路の拡張などの対応が可能
	都市公園法	市から提案されている整備可能区域では建設可能な建蔽率20%を超える	
	土壌汚染対策法	支障なし	
	その他	赤道の移管手続き	
⑤－2 周辺環境の整備	敷地が学区に近接する学校数	中学校2校 小学校3校	
	通学路の状況	公園内の通学有	
	日陰の状況	川口北中への影響大	配置計画により日陰規制による制限は解消できると考えられる。
	地震被害想定	断層による差はあるが、震度5弱～6弱	
	浸水想定	荒川水系 0.5～3.5m未満	
	下水道	下水本管による建築制限の可能性あり	支障をきたさずに建物を配置する事が可能と考えるが、配置計画によっては下水本管の切り回し工事を行う。
	高圧線	高圧線による建築制限の可能性あり	
	既存施設利用者の調整	既存施設の利用者の調整について川口市の協力が必要	神根運動場の再整備及び市内のスポーツ施設の活用により調整

候補地の現況 —上尾運動公園—



400m



上尾運動公園(県営)

所在地	上尾市日の出地内 他
敷地面積	38.6ha(運動公園全体)
交通 アクセス	JR高崎線 上尾駅から徒歩27分

上尾運動公園の状況 ①スポーツ・健康を核とした街づくり、賑わいづくり

評価項目	現状	市の提案（R3.2.10現在）
①ー1 スポーツを核とした街づくり、賑わいづくり	<位置> 上尾市の市街地南端、国道17号沿い <主な沿革> ・昭和42年 第22回国民体育大会の主会場として陸上競技場が建設 ・昭和46年 上尾運動公園東側エリアに「さいたま水上公園」建設 ・平成15年 県立武道館建設（翌年の第59回国民体育大会で武道系競技の会場） ・平成27年 埼玉アイスアリーナオープン <利用状況等> ・隣接するスポーツ総合センターには埼玉県スポーツ協会や複数の競技団体が事務所を設置し県内のスポーツ振興拠点となっている。 ・上尾シティハーフマラソンではスタート・フィニッシュの会場となっており、箱根駅伝の前哨戦として多くの大学が参加している。	<上尾市スポーツ健康都市宣言> ・スポーツ健康都市宣言による市民の気運醸成 <児童・生徒の学校教育活動> ・県央地域の児童・生徒の授業や部活動での積極的利用によりスポーツの賑わいを創出する <各種大会・教室・スポーツボランティア> ・上尾市や県央地域の水泳大会や水泳教室を開催する ・上尾シティハーフマラソンなどの実施のノウハウを活用し、大会やイベント時のボランティアの協力 <健康増進> ・市主催の多世代を対象とした各種健康増進教室の開催
①ー2 健康を核とした街づくり、賑わいづくり	<利用状況等> ・周辺の運動施設では年間80万人超の利用者 ・上尾市民体育祭、上尾市民駅伝競走大会の会場として市民のスポーツイベントを開催 ・市教委、市スケート連盟、埼玉アイスアリーナの共催により子供向けのスケート教室の実施 ・各種スポーツの大会や県民の運動の場として利用され県民の健康増進に寄与 <周辺の状況> ・周辺には県立がんセンター、上尾中央総合病院、日本薬科大学がある ・令和2年12月に上尾イオンモールがオープン	<商業施設や地域事業者との連携> ・市内の商業施設と連携したスポーツイベントによる賑わいづくり ・大会時の地元飲食店の出店など商工会と連携した賑わいの創出 <プロスポーツ資源や地域資源の活用> ・地域のプロスポーツチームや地元出身オリンピックと連携したスポーツを盛り上げる街づくり ・地元の医療機関、大学、企業と連携した取組

上尾運動公園の状況

②多様なスポーツ・健康増進に寄与するための各種運動施設との連携

評価項目	現状		市の提案（R3.2.10現在）
②-1 競技力向上に寄与するための連携	周辺スポーツ施設の状況 (規格、収容人数等)	陸上競技場(第2種公認 40,200人) 体育館(2,682人) 武道館(2,318人) アイスアリーナ(国際規格) スポーツ総合センター (体育館 200人、宿泊棟192人)	<各種運動施設との連携> ・県と市のスポーツ施設を併用することで県民のだれもが参加できる大規模スポーツ大会の開催 ・県と市の施設の連携事業における市の施設の優先貸し出し ・水泳場と陸上競技場などを組み合わせた上尾版トライアスロン(パラトライアスロン)の開催 ・国道17号上にスロープ型の遊歩道を設置することによる西側と東側の一体的な活用 <障がい者スポーツの推進> ・県と市の多様なスポーツ施設を活用したスペシャルオリンピック大会の開催 ・県総合リハビリテーションセンターと連携したリハビリサービスの提供やイベントの開催 <その他の連携> ・eスポーツイベントの実施 ・上尾市国際交流協会との協働による外国人との交流イベント ・県と市の連携による大規模防災拠点としての位置づけ ・公園の敷地を利用したパブリックビューイングの実施
	周辺の日本水泳連盟加盟団体登録クラブ	8団体	
	周辺の埼玉県水泳連盟年間優秀選手の所属クラブ	3団体(16名)	
②-2 健康増進に寄与するための連携	周辺スポーツ施設の利用状況 (平成30年度利用者数)	陸上競技場(145,138人) 体育館(103,559人) テニスコート等(27,223人) 武道館(185,267人) アイスアリーナ(179,528人) スポーツ総合センター(173,018人)	
	周辺公営屋内25mプール	なし	

上尾運動公園の状況 ③県民の利便性の向上

評価項目	現状			市の提案（R3.2.10現在）
③－1 車のアクセス、 駐車場の確保	主要道路までの所要時間（距離）		・国道17号線に接道 ・国道16号線吉野（東） 交差点まで8分（2.7km） ・圏央道「桶川加納IC」 まで28分（7.6km）	＜駐車場・周辺道路＞ ・公園南口に接続する周辺道路の整備 ・ニューシャトル原市駅から水上公園南口までの市道に案内板設置 ・イオンモールと連携した駐車場の共同利用 ・公園周辺区域への駐車場整備 ・大会、イベント時の市施設の駐車場利用及びバスでのピストン輸送 ＜公共交通機関・アクセス＞ ・市内循環バスの公園内乗り入れ及び増便 ・大会やイベント時の駅からのシャトルバスによるピストン輸送 ・他市と連携したシェアサイクルの活用
	1時間以内にアクセス可能な市町村数	高速なし	22市町村（35%）	
		高速あり	29市町村（46%）	
	周辺施設の駐車場		上尾運動公園内約1,300台	
③－2 公共交通機関のアクセス	最寄駅		・JR高崎線 「上尾駅」から徒歩27分 ・ニューシャトル 「原市駅」から徒歩22分 「沼南駅」から徒歩23分	
	最寄駅からのバス		JR上尾駅からスポーツ総合センター下車、6本/日（平日）、1本/時間（土日）	
	1時間以内にアクセス可能な市町村数		15市町村（24%）	
	2時間以内にアクセス可能な市町村数		60市町村（95%）	
	主要ターミナル駅から最寄り駅までの所要時間		東京駅：約51分 大宮駅：約8分 川越駅：約54分 春日部駅：約39分 熊谷駅：約30分	

上尾運動公園の状況 ④県民負担の抑制

評価項目	現状		市の提案（R3.2.10現在）
④－1 整備費	建設費	スポーツ総合センターを改修して活用することにより建設費節減の可能性あり	<収益事業の展開> ・上尾シティハーフマラソンと連携した事業 ・周辺の高校や大学などへの合宿誘致 ・スポーツイベントに合わせ市の文化芸術イベントの開催 ・周辺市町の観光協会や飲食店と連携したイベント ・商工会や大型商業施設との連携事業 <その他> ・平日閑散時間帯における周辺学校や高齢者の利用促進 ・市の駐車場整備やイオンとの駐車場共同利用による整備コストの削減
	土地取得費用	県有地 土地取得費用0円	
	周辺地盤 その他	深度20m程度まで軟弱	
④－2 運営費	周辺施設の 利用者数	約81万人／年	
	収益性	公園全体での収益可能性大 周辺の商業施設との連携の可能性あり	
	その他	既存井戸の利用により水道代の削減が見込める	

上尾運動公園の状況 ⑤その他個別の課題

評価項目	現状		市の提案（R3.2.10現在）
⑤－2 法令・行政手 続き	建築基準法	埼玉県建築基準法施行条例により接道道路の幅員に課題があるが、広い空地を有する公園内のため、制限緩和の実績あり(武道館)	
	都市公園法	同公園内に建設可能な建蔽率10%以内での整備可能	
	土壌汚染対策法	一部該当	
	その他	赤道の移管手続き	
⑤－1 周辺環境の 整備	敷地が学区に近接する学校数	中学校1校 小学校1校	
	通学路の状況	公園内の通学路有	園内の土地利用計画に沿った児童の安全な通学路の確保を検討する。
	公園内の車両通行	公園内に車両の通行路あり	公道ではないため、車両通行の必要性も含め、地元自治会や周辺住民と共存できる園路となるよう協議を行う。
	公園南側出口付近の市道の安全性	公園南側出口付近の市道から産業道路に繋がる道路が狭小	来園者の利便性・交通の安全性を調査し、周辺幹線道路までの道路交通環境の整備を検討する。
	日陰の状況	アイスアリーナへの影響考慮	
	地震被害想定	断層による差はあるが、震度5弱～6強	
	浸水想定	利根川水系及び荒川水系 0.5m未満	
	下水道	下水本管による建築制限の可能性あり	園内の土地利用計画により、協議、検討を行う。

さいたま市の提案の状況

【現状】

市からの具体的な候補地提案がないため、候補地の現状の整理はできない

【市の提案】**①スポーツ・健康を核とした街づくり、賑わいづくり**

屋内50m水泳場及びスポーツ科学拠点施設については、本市が進める生涯スポーツの振興及びスポーツを活用した総合的なまちづくり、賑わいづくりに寄与することも考えられる

②多様なスポーツ・健康増進に寄与するための各種運動施設との連携

本市のスポーツシューレ事業では、「学び」の機会を提供する大会・合宿・講習会等の誘致に取り組んでおり、屋内50m水泳場及びスポーツ科学拠点施設については、大会・合宿等における会場など、スポーツシューレの拠点施設の一つとして有効活用ができると考える

③県民の利便性

具体的な整備候補地の特定ができていないことから、現時点で具体の案は特になし

④県民負担の抑制

具体的な整備候補地の特定ができていないことから、現時点で具体の案は特になし
本市としても財政上大変厳しい状況にありますが、可能な範囲での協力はしたい

⑤その他個別の課題

有識者会議のご指摘のとおり、具体的な整備候補地については未定であり、課題の一つと認識している